

セッション「原発と地球科学」を通じて明らかになったこと

What I learned through the series of JPGU sessions about earth science and nuclear power plants

*金嶋 聡¹

*Satoshi Kaneshima¹

1. 九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門

1. Department of Earth and Planetary Sciences, Kyushu University

本ポスターでは、過去5年間の「原発と地球科学」セッションにおける議論を整理し、さらにそれらを踏まえて高レベル放射性廃棄物処分の問題について考える。昨年までのセッションでは、基準地振動、活断層、海溝型巨大地震の発生予測、津波予測、巨大火山噴火予測、などの問題についてそれぞれの専門家を招き議論を行った。そこでは、地球科学が原発と関わる問題の多くが、科学によって確かな解答を出すことが困難な種類の問題であることが改めて確認された。さらにこの様な問題に対しては、リスクと便益の両面から、社会の色々なレベルで公共の場における議論が行われる必要があることも明らかになった。より身近なレベルでは、地球科学に関連した理学者と工学者の間の対話と相互理解を促すことが強く望まれる。明らかに、今後一層議論されるべきは「では地球科学者は個人あるいは集団として具体的に何をすればよいのか」という点であろう。社会に向けて専門知を提供する立場にある地球科学者が、社会に対し取り得る姿勢には具体的にどのような選択肢があるだろうか。ポスターではこの様な観点から考察する。また本ポスターでは、これまでに議論した上記の様な問題と比較した時、高レベル放射性廃棄物処理問題はそれらとどのような特徴を共有し、またどのような特殊性を持つのかという点についても整理する。

キーワード：地球科学、原子力発電所、公共の議論

Keywords: earth science, nuclear power plant, public debates